

レガシープロジェクト

本日、American Friends of Akita Prefectural University（秋田県立大学のアメリカの友人たち）という名のアメリカに設立された非営利法人と、秋田県立大学との間で、私の名を冠したレガシープロジェクトに関する合意を記す覚書が調印されたことに、大きな喜びを感じ、期待をもちます。Friends 組織の実行責任者のウィルソンさんと秋田県立大学の小林理事長、ならびに覚書の成立に尽力された吉澤副学長、および貴重な助言を多くいただいた秋田県立大学名誉教授の佐藤了さんに敬意と感謝をまず表明したいと思います。

このレガシープロジェクトの主要な目的は、覚書の第2パラグラフに集約されています。その目的が達成されれば、プロジェクトが成功します。その目的を以下のように解説したいと思います。

- 第1には、「農民や農村住民（当事者）が自ら考える改善の企画進行を支援する実践的研究」
農民や農村住民が考える改善が実現すれば、プロジェクトの第1の目的が達成され、大きな成果となります。
では、そのように研究するとは何なのか？ 次の目的に示されています。
- 第2には、「当事者の意思に基づく取り組みを探し、その発生・継続・成功またはつまづきの過程や条件を明らかに」すること
当事者の意思に基づく取り組みの過程と条件が明らかになれば、どのような支援がより有効なのか明らかになります。成功の要因を解明し、個別から帰納的に積み上げていくことにより、点と点をつなげて面に広げ、人的・資金的に限りある支援をより効果的に実施でき、覚書の頁1の最終行で触れている、『農家・農村との協働とは何か』という本の問いに答え、「協働学」が確立されるようになります。
- 最後に、「農業や農村生活を改善しようとする当事者の意思を促進する」に至ります。
これにより、社会的持続性が高まり、故宇沢弘文が唱えた「社会的共通資本」が増加し、蓄積されていきます。

このような目的、すなわち、実践的研究による農民や農村住民の意思に基づく農業と農村の改善の実現、協働学の確立、および社会的資本の蓄積は、1-2年にできるものではないでしょう。その確実な実現のためには、レガシープロジェクトの期間を最初に10年間と設定し、長期的な研究活動を支えられるように企画しました。以上解説してきた覚書のこの3つの目的が達成されれば、レガシープロジェクトが成功できると確信し、おおいに期待しております。

2022年10月11日

ジョン・S・コールドウェル